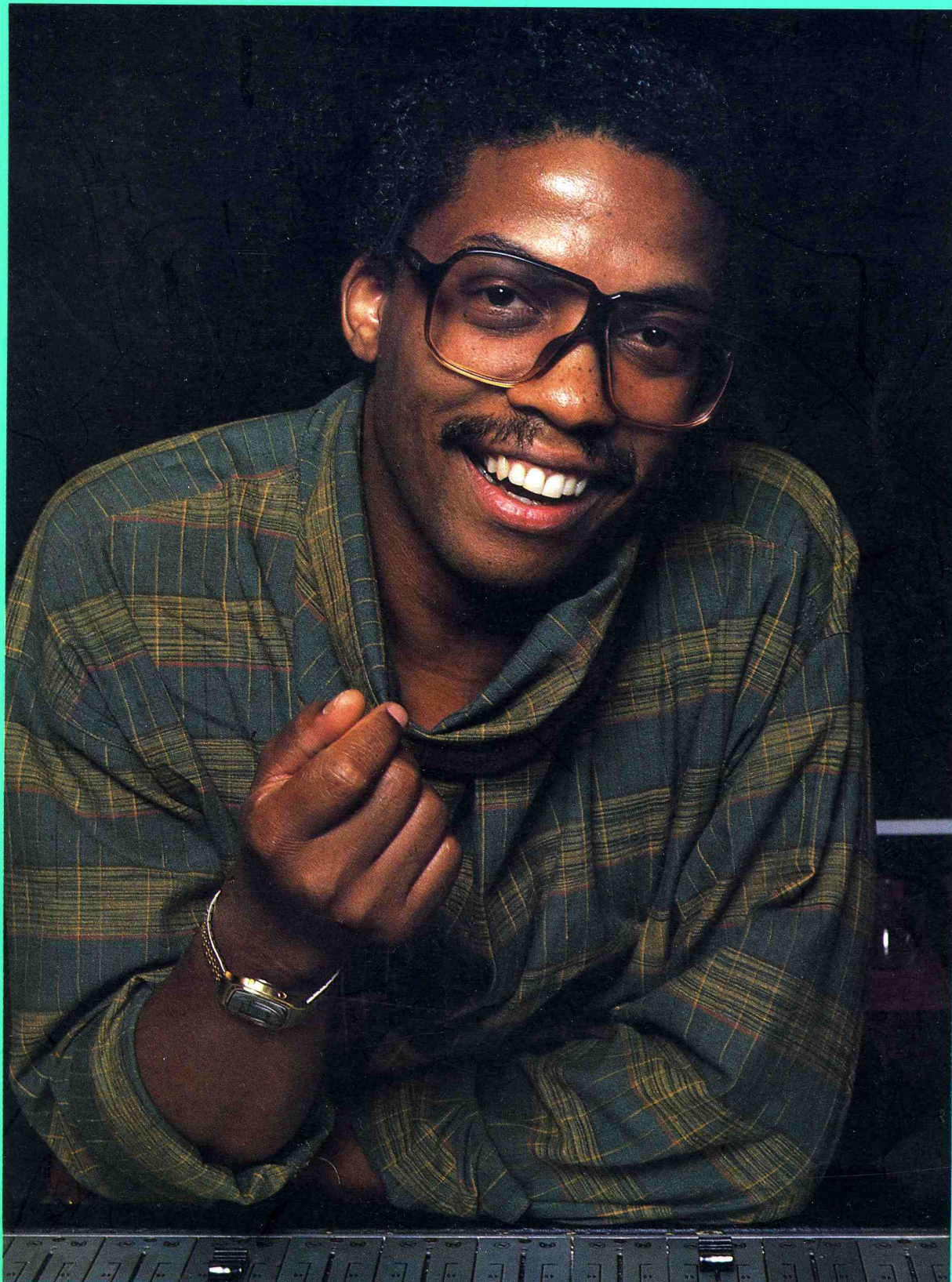


CBS/SONY SONGS

Herbie Hancock

Scores including Adlib in "Rockit Band"



contents

最高に"Dangerous"!! ハービー・ハンコック 大徳俊幸	1
Rockit	4
Autodrive	20
Karabali	43
Junku	63
Earth Beat	83
Hardrock	85

Cover Photo by Hiro Ito
Copy by Mutsuo Tsuruta
Kyoko Otagawa

We acknowledge the contribution of Mr. Fukabori, April Music to this
"Best Selection Series". (T.I.)

初めて“Rockit Band”を聴き、そしてハービー・ハンコックの名前をこれまで知らなかった人達にとって、この音楽はおそらく、とてもミステリアスなものと感じられたことだろう。そういう僕自身にとっても、このグループのサウンドは、実に衝撃的なものだった。彼のことは知りつくしていたはずなのに、やはり驚きはかくせなかった。ハービーという人物は、大変にエネルギーギッシュなミュージシャンであるということに、感心するばかりだ。

この20年間、彼はジャズ・シーンではトップ・ミュージシャンとして、君臨していたし、数々のヒット曲も残してきた。何といっても、あの素晴らしいピアノ・プレイを聴かせていたのだが、ここへきて“Future Shock”というレコードが爆発的なヒットとなり「グラミー賞」まで獲得する大スターとなってしまった。そして、この音楽がジャズでもなければ、ニュー・ウェイヴでもない、独特のジャンルを築いてしまったのだ。僕自身、ずっと以前からハービーの大ファンだったし、ジャズを志すピアニストならば、誰でも憧れるはずで、やはり彼のことを語るときには、ジャズ・ミュージシャンとしての側面も忘れるわけにはいかないだろう。そもそも、マイルス・デイビスのグループに在団していた頃から、ハービーの名前は有名だったが、その後いくつか自分のグループも持ち、又、セッション・ミュージシャンとしての活躍も目立っていた。そのあたりの、ジャズ・ミュージシャンとしての詳しいことは、このベスト・セレクション・シリーズ②、「ハービー・ハンコック＝アコースティック・ピアノ・ソロ」の中で述べているので、参考にして下さい。

このところハービーの活動が少し地味になってきたと思いきや、このような新しいグループをつくってしまうとは、誰が想像しただろうか。何かふっきたように、自由奔放にパフォーマンスしているではないか。これによって、若い音楽ファンたちを魅了してしまったのだが、彼の今までの足跡をたどれば、そこには現在に至る必然性が沢山あるのだ。そこで“Rockit Band”に至るまでの重要な時期をいくつかにしぼってみよう。

第一期 60年代

ハービーの最初の大ヒットとなったのは“Watermelon Mano”この曲はよく知っているだろう。当時、どこをみても4ビート・ジャズばかりだった中で、彼は8ビートのファンキーで明るい曲を作った。若いハービーにとって、この曲を作るきっかけとなったのは、ホレ

最高に“Dangerous”!!

ス・シルバー（60年代を代表するファンキーなジャズ・ミュージシャン）からの影響だ。内容は単なるブルースの変形だが、その覚え易いメロディーは今日でもスタンダードな曲として残っている。その頃彼はマイルス・グループに入団する等、最も洗練されたジャズ・ミュージシャンとしても、人気があった。また“欲望”という映画では、サウンド・トラックを担当している。

第二期 70年代前半

その後彼は、ジャズ・ミュージシャンとして、しばらくの間ポップ・シーンからは遠ざかっていた。そしてこの間に素晴らしいジャズのレコードを沢山発表していたが、ジャズが急激に発展する中で、彼は実験的なグループ“Sextant”を結成した。これはその難解さゆえ、いまひとつパツとしなかった。しかしこのグループのサウンドに“Rockit Band”の源があるのだ。

ちょうどこの頃は、宇宙開発がたけなわであって、その高度な技術はついに音楽の世界にまで波及した。そしてシンセサイザーなるものが完成したのだ。今にしてみれば、この素朴な楽器も、ハービーにとっては必要不可欠な表現の道具となった。“Sextant”の音楽は必ずしもメロディックというものではなく、ブルース・フィーリングを感じるものでもなかった。これは例えば宇宙空間をさまよう魂を表現するような感じがする。全体的には組曲風の構成で、全員の即興による前衛的な手法を取り入れていた。そしてアフリカン・リズムをベースにしており、このベーシック・リズムの概念こそが、今日の“Rockit Band”の基盤であることは、言うまでもない。しかし、この魔術的ともいえるリズムの上に、シリアスな内容がのった音楽は、世間に受け入れられなかった。多分、ハービーにとっても混沌とした時期だったのだろう。

第三期 70年代後半

そして“Sextant”の反省から、ハービーはひとつの結論を得、一切を捨てて、ファンク・ミュージックに突入したのだ。これが、大ヒットした“Head Hunters”で、それまでのハービーは、いわゆるジャズ・ミュージシャンとの共演がほとんどだったが、リズム・セクションにファンク・ミュージシャンを起用しているところが、興味深い。ドラムのハーヴィー・メイソン、ベースのポール・ジャクソン等のリズム・アレンジを基にして、シンプルなメロディーをのせるという方法をと

ハービー・ハンコック

ったのだ。それまでのようにリーダーであるハービー自身がすべてのイニシアチブをとるのではなく、作業を分担することで、より明快でポップなサウンドを演出している。特に大ヒットとなった“Cameleon”という曲は、ブルース・フィーリングにあふれたダンス・ミュージックと言えるだろう。これでハービーのダンス・ミュージックという感も拭えなかった。しかしながら彼の音楽は更に洗練され、美しいメロディーとその透明なサウンドは、他の若いミュージシャンたちの見本となった。

ところで80年代になって頭角を現わしてきた人に、クインシー・ジョーンズがいる。彼のプロデューサーとしての才能はジョージ・ベンソン、あるいはマイケル・ジャクソンの例を出すまでもない。クインシーの代表作「愛のコリーダ」は記録的なヒットとなったが、このレコードに実はハービーがピアニストとして参加している。そしていわゆるクインシー・サウンドが主流となるや、ハービーも負けじとこれに追随した。それはまだ記憶に新しい“Lite Me Up”だ。ジェイ・グレイドンのプロデュースのもとに、ロッド・テンパートンがアレンジを担当し、これによって完璧なまでのポップ・ミュージックを完成させたが、その出き栄えにもかかわらずビッグ・ヒットとはならなかった。このレコードにおけるハービーの存在感が薄かったということも原因しているのかもしれない。

第四期 83年以後

ちょうどこの頃、新しく編成された“V・S・O・P”（トランペットのウイントン・マルサリスをフューチャーしたグループ）で来日していたハービーに話を聞くことができた。彼は“Lite Me Up”が不発に終わったことで残念がっていたが、それで逆にふっ切れた様子だった。そして次に発表するものは大変に面白いものだということも話してくれた。これが問題作“Future Shock”だ。

私の持っているハービーに対するイメージは、リリカルでスマートなミュージシャンというところだったので、まさかこのような音楽が出現しようなどとは、考えもつかなかった。そもそも“Future Shock”はディスコでヒットしていたということで僕自身もディスコでいち早く聴くこのができたのだが、それは“Rockit”という曲だった。その時はまだ誰の演奏かも知らずに聴いていたのだ。ニュー・ウェイヴでもないし、単なるブラック・コンテンポラリーでもない、一体こんな

暴力的な演奏をするのは誰なんだろう。しかし妙にひきつけるものがある。乱暴なまでのデジタル・ドラムの連打といい、ねばっこいベース・ライン、なぜか泥臭いメロディー、一見バランスを失ったようなアンサンブル、人を馬鹿にしたような展開のしかた。どこをとってもいちいち気になってしまう。

これがハービーの演奏であることを知ったのは、だいぶ後のことだった。完全に裏をかかれた。一言「マイッタ」余談だが、「マイッタなあ。」はハービーの口癖です。

何とこのレコードのプロデューサーはかねてからの話題の「マテリアル」のビル・ラズウェル（ベースも弾いている）である。ハービーとしては、実に良い人材に目をつけたものだ。曲作りに関していうならば、あくまでもテーマはハービーの作曲だろう。また大筋での展開のアイデアも、やはりハービーのものだろう。しかしリズムの細かい部分や味付けはビル・ラズウェルの助言に依るところが大きいと思う。

さて“Future Shock”、および“Sound System”の根本となっているものは、ダンス・ミュージックであるといえる。シンプルなデジタル・ドラムのプログラムの上によって、ラテン・パーカッションのポリ・リズムがからんでいる。メロディー・ラインはデジタル・ドラムを意識しているのか、やはり無機質な感じであるが、どこことなくブルース・フィーリングも感じられるのも奇妙だ。それに黙々と鳴っているベース・ライン。また何といっても圧巻はスクラッチだ。さらに重要なことは、パーカッシヴな音は多いが、ハーモニーが極めて薄いことだ。つまり和音によるバックングをごく控え目にしているが、これがまたリズムをより明確にさせる要因となっている。今までの、ハーモニー重視のハービーにとっては、画期的なことである。

現代の多様化しつつある、ポップ・シーンの中にある“Rockit Band”の新しさとは何だろう。それはビル・ラズウェルの突飛なアイデアとハービーのオーソドックスな部分との対比といえるだろう。そして使用されているデジタル機材の豊富さ。さらにハービーの持つ独特のフィーリングがある。それは、どこもなく淫靡でクールなところ、何か危険な香りがするところだ。よくアメリカのミュージシャンの間で使われている言葉に、“Dangerous”というのがあるが、実はこれは最高の誉め言葉なのだ。まさにハービー・ハンコックは“Dangerous”な存在なのだ。

Rockit

Herbie Hancock: Fairlight CMI
Rhodes Chroma
Sennheiser Vocoder
Clavitar
Dr. Click Rhythm Controller
E-mu 4060 Digital Keyboard and Mini-Moog
Bill Laswell: Steinberger Bass (L-2)
Michael Beinhorn: DMX
Synare
Mini-Moog Programming
Grand Mixer D.ST.: Turntables
Daniel Ponce: Bata

メインとなるリズムはオーバーハイム製の DMX。これはデジタル音源を持つプログラマブル・ドラム・コンポーザーで現在最も良く使われるドラム・マシーンである。この曲においてまず始めにシンプルなドラム・パートのプログラム（ハイハット、スネア、そしてベースドラム）がなされている。曲の展開に応じてデリート（消去）したり、インサート（割込み）を繰返してベーシックトラックを作っている。その後でベースおよびシンセサイザーをダビングするが、必要に応じてタム類も後からダビングしているものと思われる。最初のベーシック・トラックを作ったときの同期信号によって再び DMX を作動させている。このドラム関係の録音だけでも相当な時間を要しているはずだ。それにこの曲の持つ、うねるようなフィーリングは Dr. Click Rhythm Controller によって作られている。正確な使い方は分らないが、アクセントあるいは微妙なタイミングのずれをコントロールしているものだろう。更に直接手で DMX の Key を打ち込んで演奏している部分もところどころある。

ステージ・ライブでの演奏においての方法はむしろドラマーを2人にするなどして全面的にはデジタル機材を使用していなかったようだ。

さてアナログ・リズム、すなわちミュージシャンによる演奏の素晴らしさが実は問題となる。パーカッションで特徴のあるものは、Bata とよばれるもの。音質

的にはコンガのようなだが、肩からつるして両側のヘッドを叩く楽器。次にスクラッチと呼ばれるものがある。これはレコード・プレーヤーを手で回して色々な音程やリズムを出しているもの。これをプレイしている D. ST という人はなかなかのテクニシャンである。彼のシンコペイティッドなリズム感はハービーのバックングのそれと実によく似ているところが不思議である。あらかじめアレンジされている部分が多いようだが、途中のスクラッチ・ソロはハービーのクラビネット・ソロのようだ。

シンセサイザーの音で特徴的なのはサンプリング（様々の音をデジタル録音するだけでなく、ストックもできる。）した音をパーカッションに作っていることだ。Fairlight + CMI はこのようなことが可能な代表的なデジタルシンセサイザー。曲の後半でプレイされているリズム・ソロは Rhodes Chroma（ポリフォニックシンセサイザー）。それからところどころに出てくるディストーション・ギターのサウンドはサンプリングによるものかもしれない。ステージ・ライブではヤマハの DX7 でやっていた。

この曲の決定的なリズム・フィーリングはハービーのリズム・プレイにある。どの小節においても第1拍目から叩く音符の無いのが特徴だ。こういうリズム・ヴァリエーションは、ラテンやゴスペルなどによくみられるものだ。
(大徳)

ROCKIT

H. Hancock/B. Laswell/M. Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

Herbie Hancock:
Fairlight CMI
Rhodes Chroma
Sennheiser Vocoder
Clavitar
E-mu 4060 Digital Keyboard
Mini-Moog

Grand Mixer D. ST:
Turntables

Bill Laswell:
Steinberger Bass

Michael Beinhorn:
DMX

Attack Sound
Bata

Synare
Tom

A

H.H.

(Timpani)

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

B

p (Noise)

1. 2.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(Shaker)

pp

C

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

pp

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(Vocoder)

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(2x only)

(2x only)

(2x only)

1. 2. 3.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(Vocoder)

(2x only)

2x. Scratch

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(Vocoder)

(2x only)

p

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

(Strings)
pp

Guit.

(Vocoder)

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

1. 2.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

1.

(Vocoder)

1x only

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

2.

G

(Noise)

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(Vocoder)

(Strings)

pp

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

mp

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

(4 times repeat)

(Kbd. from 2nd time)

Port.

Kbd.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Autodrive

Herbie Hancock: Piano
Rhodes Chroma
Mini-Moog and Yamaha GS-1
Bill Laswell: Steinberger Bass (L-2)
Michael Beinhorn: DMX
Synare
Shortwave
Mini-Moog Programming

この曲は“Rockit”とほとんど同じ様にして作られていったと思われる。パーカッションのパートに書かれているシモンズのような音は、Synare だろう。他にもパーカッション的な音はシンセサイザーで演奏されている。パート I での高い打撃音は同期信号によって起こされたトリッガーでミニ・ムーグを鳴らせたもの。

全体的には以外と古い手法を用いている。例えば人間の声、ベースのチョッパー、あるいはパート I、M のパーカッシヴな音などは単にデジタル・ディレイでリピートさせている。ベース・パターンを見てみよう。昔なつかしいパターンだ。次にアコースティック・ピアノのリズムは全部第 1 拍目から鳴っている。これは明らかにジョークとも考えられる。ところがシンセサイザーのメロディーはこの間をぬうようになっている。実をいうとどちらもメロディーではないような気がする。

曲の構成はいつ終るともないピアノとシンセサイザーのかけあいであるテーマ部分がほとんどだ。ときたま出てくるピアノ・ソロが特徴となっている。これがハービー独自のアドリヴ奏法で面白い。普通だとピアノ・ソロはもっと盛り上がりつつも良いはずだが、すぐに幕切れとなってしまうところが実にトリッキーである。

(大徳)

AUTODRIVE

H. Hancock/B. Laswell/M. Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

Herbie Hancock:
Polyphonic Synthesizer

Acoustic Piano

Bill Laswell:
Steinberger Bass

Michael Beinhorn:
DMX, Synare

Herbie Hancock:
Mini-Moog

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

A

D7

B

D7

D7

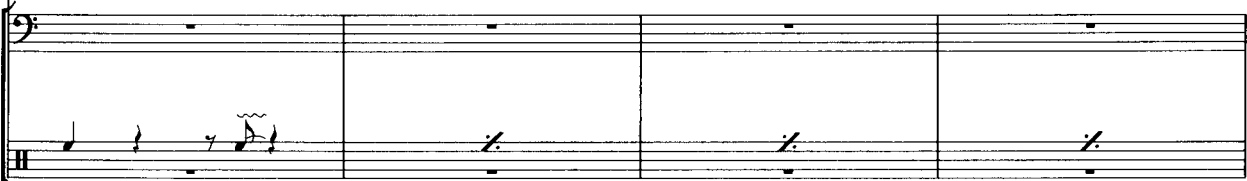
p

Synth.  **D7**

A. Pf. 

Bass. 

Drums. 

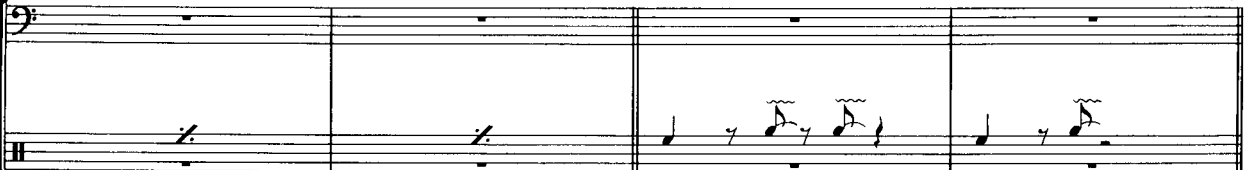
Perc. 

Synth.  **D7** **D7** **C** (Human Voice)
L with Digital Delay

A. Pf. 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

D

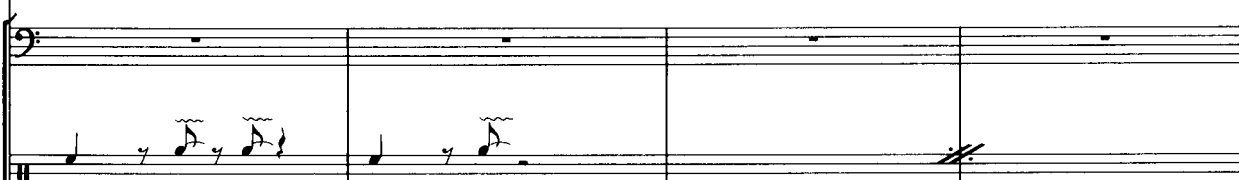
Synth. 

D7

A. Pf. 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

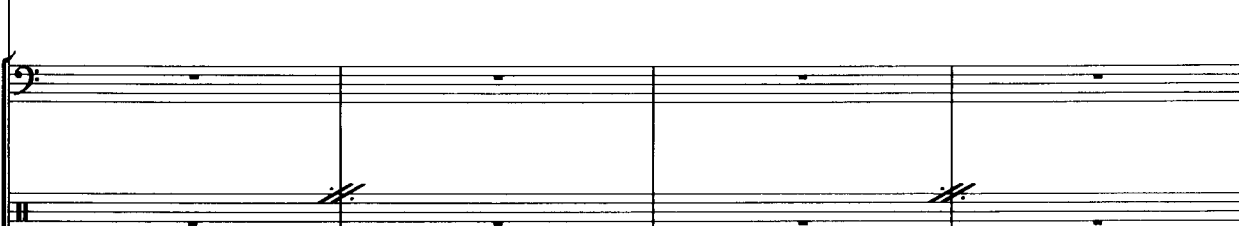
Synth. 

D7

A. Pf. 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Synth. (D7#9)
 A. Pf. D7
 Bass.
 Drums.
 Perc.

Synth.
 A. Pf. D7
 Bass.
 Drums.
 Perc.

Synth. F (Human Voice)

with Digital Delay

Bass. **D7**

Drums.

Perc. (Wood Block)

Synth.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth. **G**

Bass. **D7**

Drums.

Perc.

Synth. 

A. Pf. 

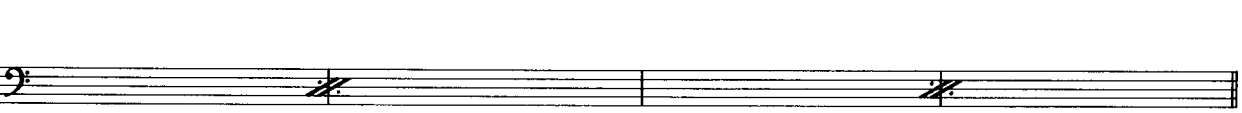
Bass. 

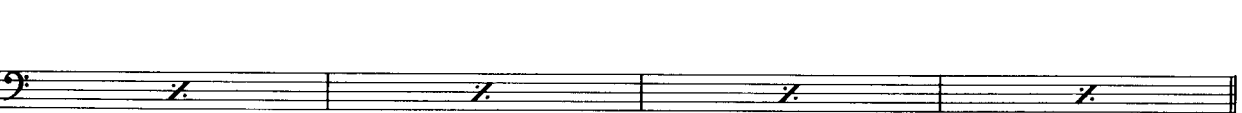
Drums. 

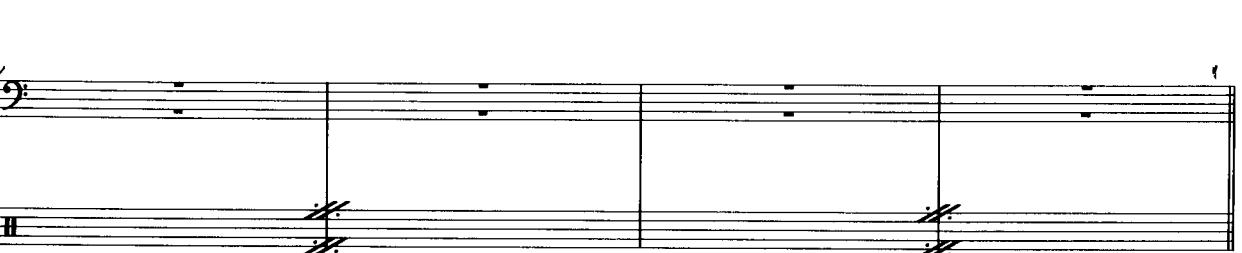
Perc. 

Synth. 

A. Pf. 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

D7

Synth.

Drums.

Perc.

S-H

pp

sempre p

simile

(Wood Block)

free tempo

Synth.

Drums.

Perc.

I'

Synth.

Drums.

Perc.

Synth.

Drums.

Perc.

I''

Synth.

Drums.

Perc.

(Human Voice)

With Digital Delay

K

Synth.

Bass. **E7** (Marimba) 7'
 L with Digital Delay

Drums.

Perc.

Synth.

Bass. **E7**
 L with Digital Delay

Drums.

Perc.

L

Synth.

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

Synth. **M**

A. Pf. **E7**

Bass. (Marimba)

Drums.

Perc.

$L \approx 15''$, Free Tempo

Synth.

E7

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth. to 

A. Pf D7

Bass.

Drums.

Perc.



Synth. ⑩

A. Pf D7

Bass.

Drums.

Perc. †



Synth.

D7

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

D7

1.8^{va} bassa

Synth.

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

D7

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

D.S.to

⊕ Coda

Synth. R

A. Pf D7

Bass.

Drums.

Perc.

(w. Block)

The first system of the musical score consists of five staves. The Synth staff begins with a quarter note (Q) and ends with a repeat sign (R). The A. Pf staff has a D7 chord marking. The Bass staff features a steady eighth-note pattern. The Drums staff shows a complex rhythmic pattern with many sixteenth notes. The Perc. staff includes various rhythmic markings and a 'w. Block' annotation at the end.

Synth.

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

The second system of the musical score consists of five staves. The Synth staff is mostly empty. The A. Pf staff has a 2/4 time signature change. The Bass staff has a 2/4 time signature change. The Drums staff has a 2/4 time signature change. The Perc. staff has a 6/8 time signature change.

Synth. S

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

The first system of the musical score. Synth. has a square symbol in a box. A. Pf. has a D7 chord and a bass line. Bass. has a bass line. Drums. has a drum pattern. Perc. has a percussion line.

Synth.

A. Pf. **D7**

Bass.

Drums.

Perc.

The second system of the musical score. Synth. has a melodic line. A. Pf. has a D7 chord and a bass line. Bass. has a bass line. Drums. has a drum pattern. Perc. has a percussion line.

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth. V
 A. Pf D7
 Bass.
 Drums.
 Perc.

Synth.
 A. Pf D7
 Bass.
 Drums.
 Perc.

Synth.

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

F.O.

Karabali

Herbie Hancock: Piano

Fairlight CMI

Wayne Shorter: Soprano saxophone

Bernard Fowler: Vocals

Vocal arrangement

Daniel Ponce: Bata

bells

shekere

Hamid Drake: Cymbals

Will Alexander: Fairlight CMI programming

2枚のアルバム唯一の、アコースティック・ヴァージョンであるが、基本的なコンセプトは変わっていない。リズム隊は全て、人間によるアナログ・リズムであるが16ビートのアフリカン・リズムを基本に非常に複雑なうねりをあらわしている。また構成も必ずしも8小節単位でなく、7小節、9小節と一見不自然な単位が見事にリズムにとけこんでいる。

ソプラノ・サックスのウェイン・ショーターとハービーは、お互いにソロとバックの関係ではなく、この大きなうねりの中で対等に、そしてのびのびとプレイしているのが聞いてて気持ちいい。かすかに聞こえるソプラノ・サックスの音は多分フェアライトのサンプリングによるもので、ハービーの遊び心がキラリと光っている。

KARABALI

H. Hancock/D. Ponce

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

Bernard Fowler:
Vocals

Wayne Shorter:
Soprano saxophone

Herbie Hancock:
Fairlight CMI

Acoustic Piano

Daniel Ponce
Bata
bells
shekere
Hamid Drake:
Cymbals

$\text{♩} = 120$

A

(Sum Piano)

Vocal.

Ka-ra - ba - ri

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

B

Vocal. *Ka - ra - ba - ri* *Ka - ra - ba - ri*

Sax.

Synth. *(Sum Piano)* *(Synth)* *p*

Fmaj7/G

A.Pf *mp*

Perc. *simile* *simile* *simile* *(Mute)*

Vocal. *Ka ra ba ri* *1. Ka-ra-ba-ri* *2.*

Sax.

Synth.

(Fm69/G) **Fmaj7/G** **B^b/C C/D** *mf*

A.Pf

Perc.

C

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf. **Fmaj7/G** **Fm69/G**

Perc.

pp

simile

Vocal.

Sax. *p* *pp* (Soprano Sax)

Synth.

A. Pf. **E♭maj9** **B♭/C** **C/D** **Fmaj7/G** **B♭/C C/D** *mf*

Perc.

Vocal. Ka-ra-ba-ri

Sax.

Synth.

Fmaj7/G

A. Pf

Perc.

Vocal. Ka-ra-ba-ri

Sax. S. Sax.

Synth.

Fmaj7/G **Em9**

A. Pf

Perc. (Bell)

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

F#m7(11)/E

Em9

A#maj7/Bb

pp

molto

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

Bb maj7/C

Bb/C C/D

pp

p

(Congas)

Ka ra ba ri —

E

Vocal. *Ka - ra - ba - ri* *Ka - ra - ba - ri*

Sax.

Synth.

Fmaj7/G

A. Pf. *mp*

Perc. *simile* *simile* *simile*

Vocal. *Ka - ra - ba - ri*

Sax. *p* *pp*

Synth.

Fmaj7/G

A. Pf.

Perc.

Vocal. F

Sax. *molto.*

Synth.

A. Pf **Fmaj7/G** **Fm69/G**

Perc.

Vocal.

Sax. 5

Synth.

A. Pf **B $\flat$ /C** **C/D** **Fmaj7/G**

Perc.

Vocal. Ka - ra - ba - ri

Sax. *f*

Synth. *S. Sax. p*

A. Pf **Fmaj7/G** *mf*

Perc.

Vocal. Ka - ra - ba - ri

Sax.

Synth.

A. Pf **B $\flat$ /C** **C/D** **G9** *f*

Perc. *(Bell)*

G

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf.

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf.

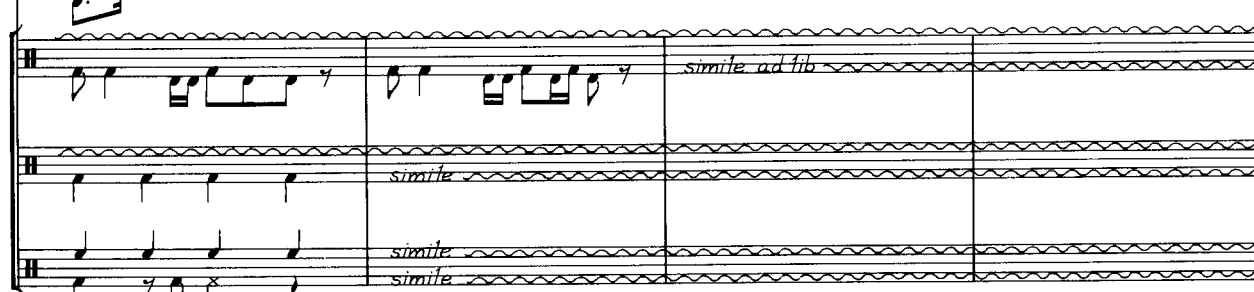
Perc.

Vocal.  *Ka-ra - ba - ri* *Ka-ra - ba - ri*

Sax. 

Synth. 

A. Pf.  **Fmaj7/G**

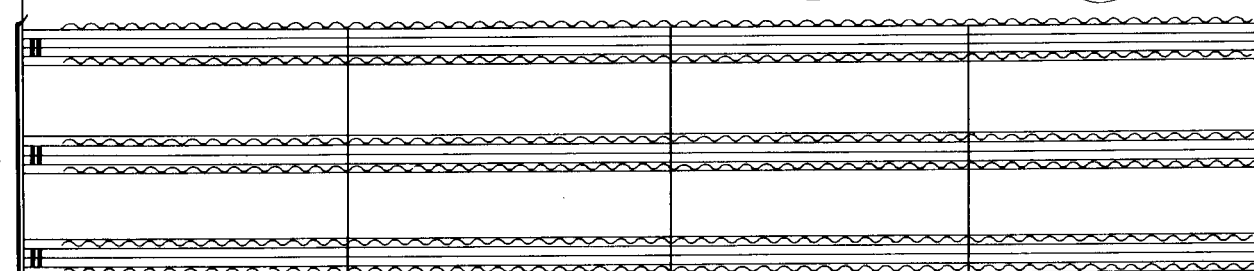
Perc.  *simile* *simile* *simile* *simile* *simile* *ad lib*

Vocal.  *Ka ra ba ri*

Sax. 

Synth. 

A. Pf.  **Fmaj7/G**

Perc. 

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

B $\flat$ /C

C/D

Vocal.

Sax.

Synth.

Fmaj7/G

A. Pf

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

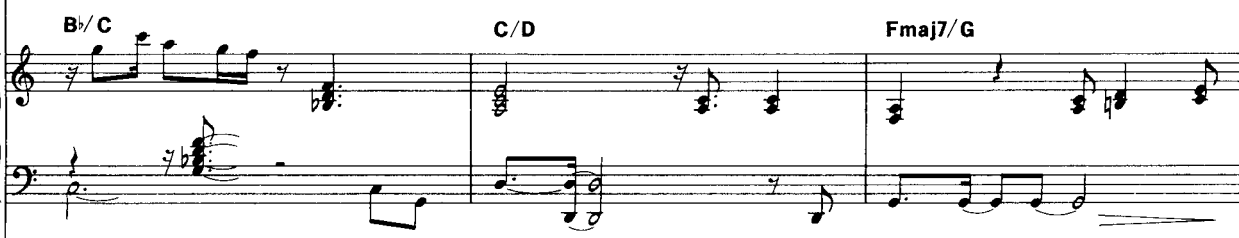
Perc.

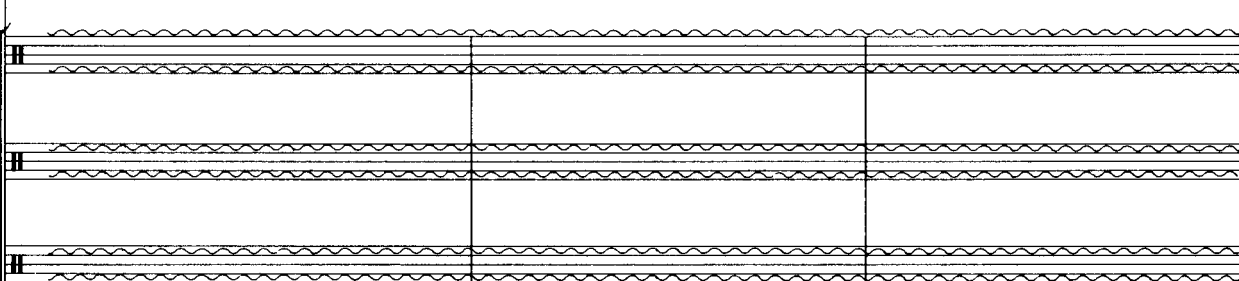
Ka - ra - ba - ri

Vocal.  Ka - ra - ba - ri

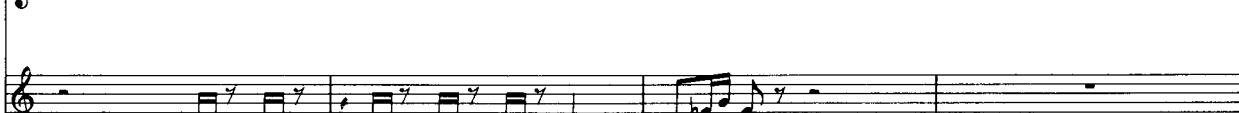
Sax. 

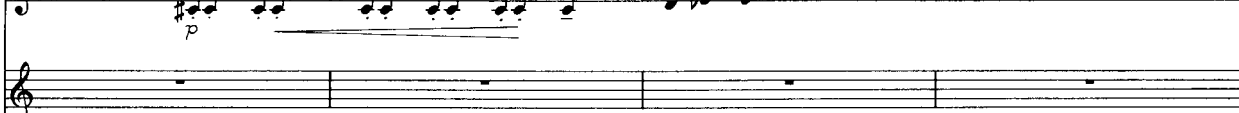
Synth. 

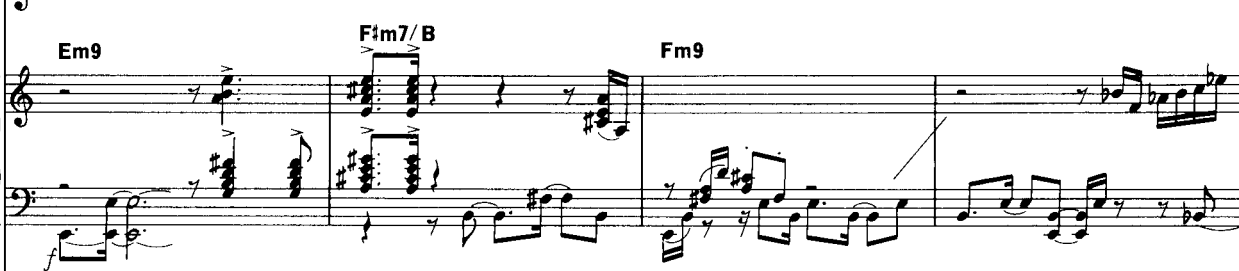
A. Pf.  B $\flat$ /C C/D Fmaj7/G

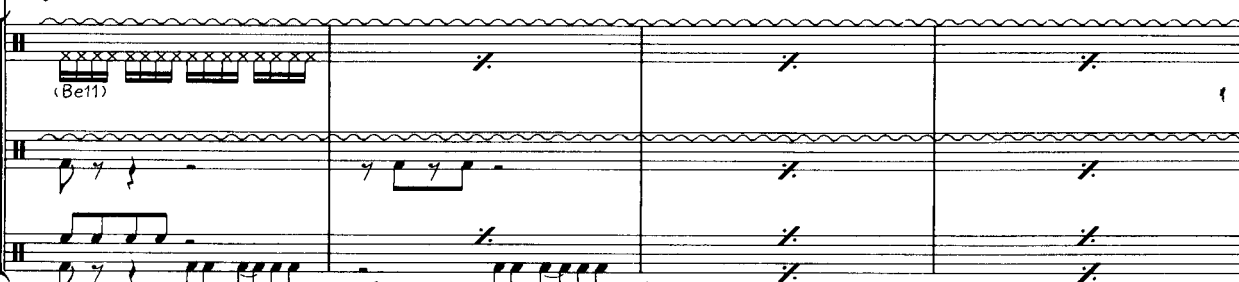
Perc. 

Vocal.  I

Sax.  p

Synth. 

A. Pf.  Em9 F#m7/B Fm9

Perc.  (Be11)

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf. **A^b maj7/ B^b** **B^b/C**

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf. **C** **Fmaj7/G**

Perc. *(Congas)* *simile* *simile*

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

B $\flat$ /C

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

C/D

Fmaj7/G

E $\flat$ maj7

Vocal.

Sax. *p*

Synth

Fmaj7/G

A. Pf

Perc.

Vocal.

Sax. *3*

Synth. *S. Sax. pp*

B $\flat$ /C **C/D** **Fmaj7/G**

A. Pf

Perc.

K

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf **Fm69/G**

Perc.

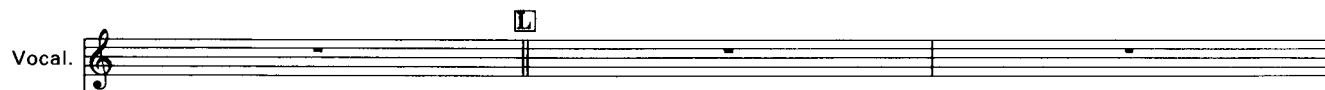
Vocal.

Sax. *mp*

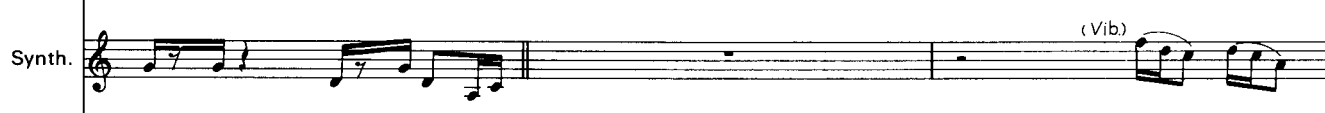
Synth.

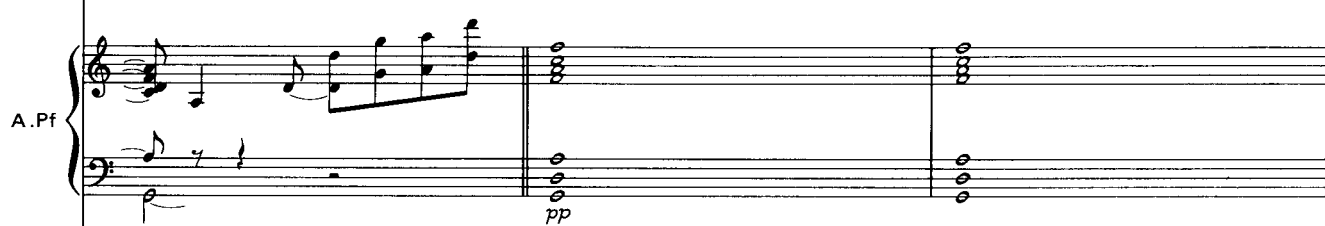
A. Pf **E♭maj9** **E♭maj7/C** **Fmaj7/G**

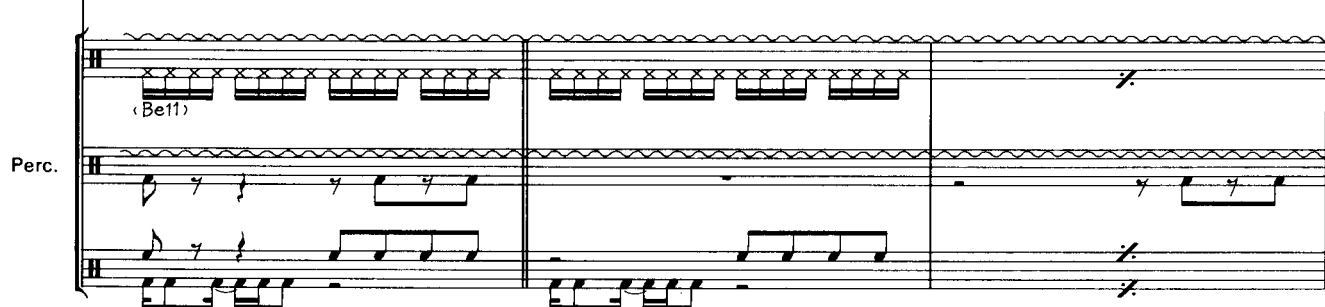
Perc.

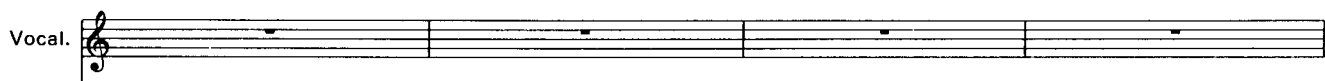
Vocal. 

Sax. 

Synth. 

A. Pf 

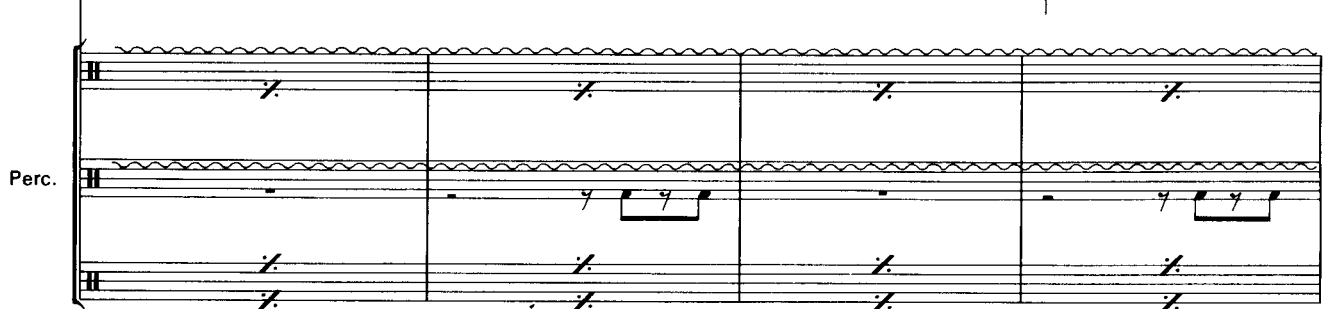
Perc. 

Vocal. 

Sax. 

Synth. 

A. Pf 

Perc. 

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf.

Perc.

(Congas)

B $\flat$ 7($\sharp$ 11) A $\flat$ 7($\sharp$ 11) Fmaj7/G

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf.

Perc.

B $\flat$ 7($\sharp$ 11) A $\flat$ 7($\sharp$ 11) Fmaj7/G B $\flat$ 7($\sharp$ 11) A $\flat$ 7($\sharp$ 11)

F. O.

Junku

Herbie Hancock:	Piano Fairlight CMI Yamaha DX7 Rhodes Chroma Memorymoog
Foday Musa Suso:	Kora kalimba dusunguni
Bill Laswell:	Steinberger Bass (L-2) DMX tapes
Aiyb Dieng:	Talking drum chantan don don cowbell
Rob Stevens:	Praxis processing XMD

ロスアンゼルス・オリンピックのテーマ曲。冒頭でタムのフィル・インのすぐ後に出てくるオーケストラの、ぶ厚いサウンドは明らかに Fairlight CMI のサンプリング音である。この曲では、DMX によって作られたベーシックなドラム・パターンに様々な音を重複させることによって少し違う味を出している。たとえばパート F ではボコーダーでリズムをきざんでいる。ベースラインにおいてはシンセサイザーが同じ音で鳴っている。

パート B からのテーマ、メロディーはトランペット用のサウンドであるが、いくつかの音源が同時に鳴っているようだ。中南米国のエキゾチックなメロディーが印象的である。そしてハーブのような音色の Kara がとても民族音楽的な色を出している。

途中のリズム・ヴァンプでスクラッチのように聞こえる音があるが、クレジットによるとどうもテープ・レコーダーを使っているようだ。

この曲ではもちろんビル・ラズウェルが参加しているが、曲の展開の仕方が割と単純になされている。イントロ部分でドラムのタムが連打したり、あるいはオーケストラ・サウンドがフォルテシモで鳴ったりするという動機部分を大事にしていることだ。主旋律が一応終る体勢にはいると、そくざにこの動機がもち上がってくるというパターンだ。いわゆる変奏曲の形式を絶対にとらないというところが面白い。 (大徳)

JUNKU

H. Hancock/F. Suso/B. Laswell/A. Dieng

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

Foday Musa Suso:Kara

Herbie Hancock:

Piano
Fairlight CMI
Yamaha DX7
Rhodes Chroma
Memorymoog
Tape

Bill Laswell:

Steinberger Bass

DMX

Aiyb Dieng: cowbell
chantan

♩ = 112

pp

ff

Channel: L → R

simile

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

sfp

simile

Kara.

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

molto

simile ad lib

Kara. **B**

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1 **A**

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc. *simile ad lib*
simile

Kara.

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

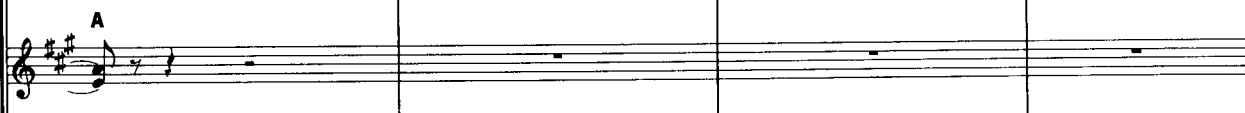
Bass.

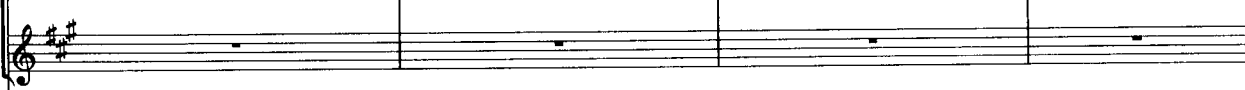
Drums.

Perc.

Kara. 

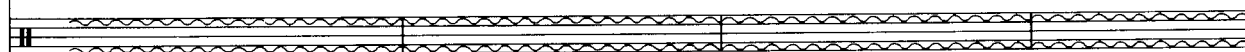
Syn.1 

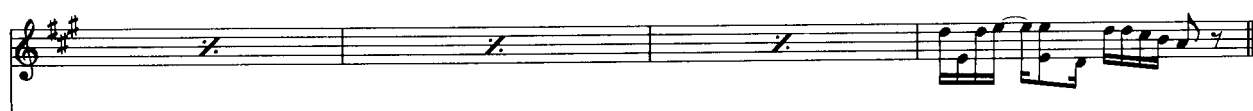
Syn.2 

Syn.3 

Bass. 

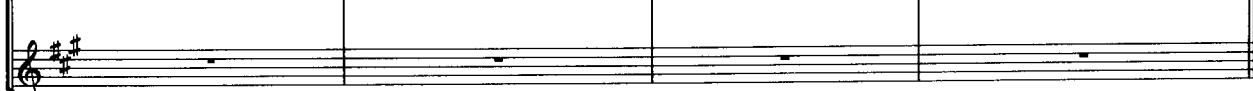
Drums. 

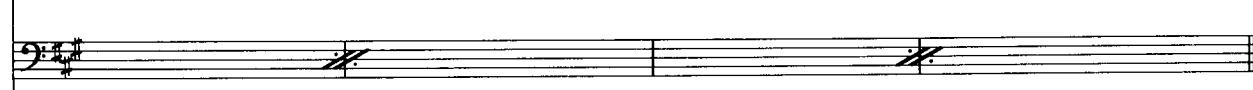
Perc. 

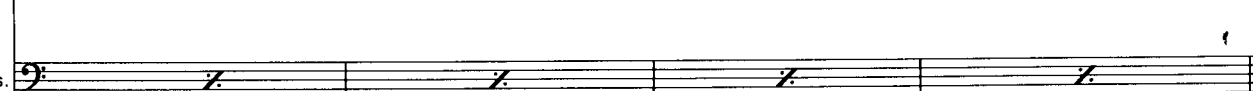
Kara. 

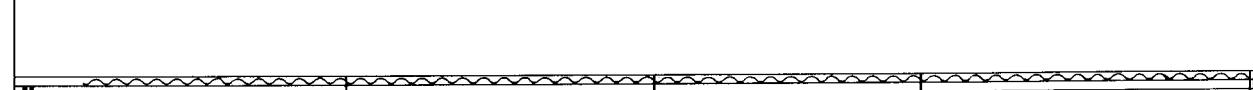
Syn.1 

Syn.2 

Syn.3 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

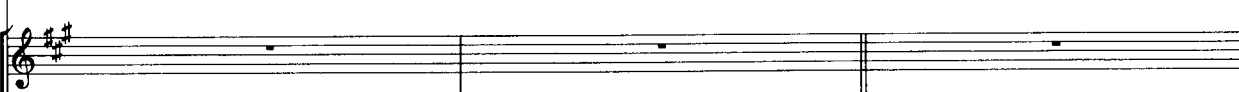
Syn.3

Bass.

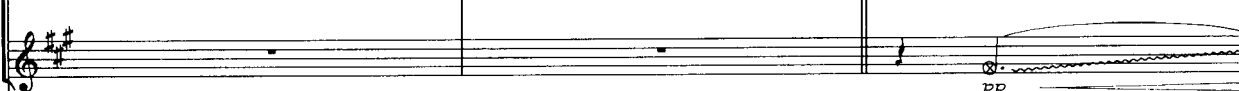
Drums.

Perc.

Kara. 

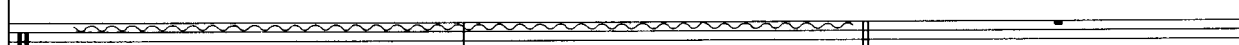
Syn.1 

Syn.2 

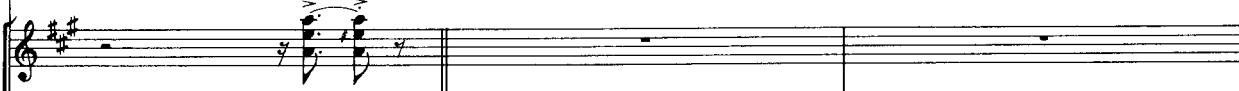
Syn.3 

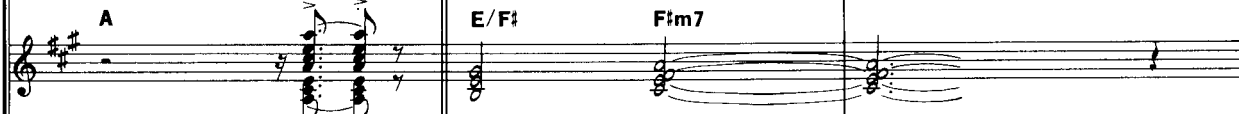
Bass. 

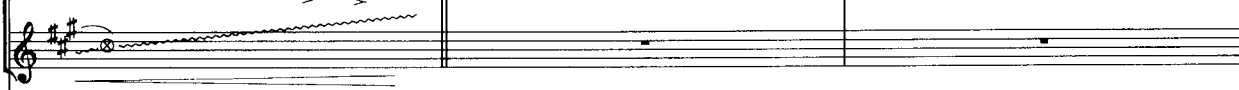
Drums. 

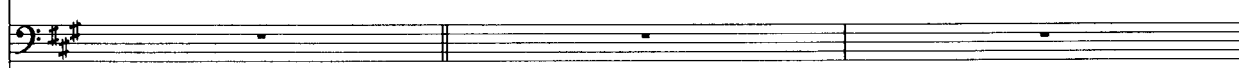
Perc. 

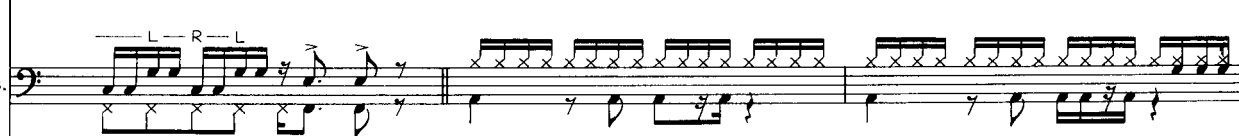
Kara. 

Syn.1 

Syn.2 

Syn.3 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

F

Kara.

Syn.1

Syn.2 **Dm**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Vocoder

mp

Tape

Kara.

Syn.1

Syn.2 **Dm**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

f

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Dm

A

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

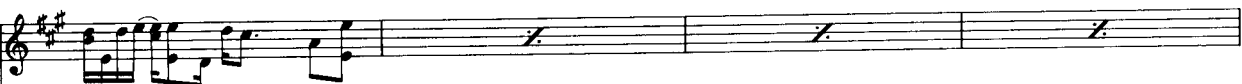
Drums.

Perc.

G

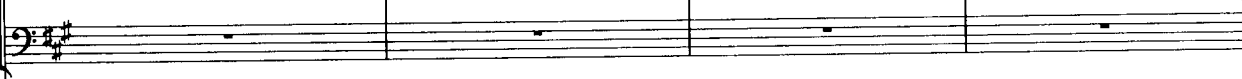
A

simile ad lib

Kara. 

Syn.1 

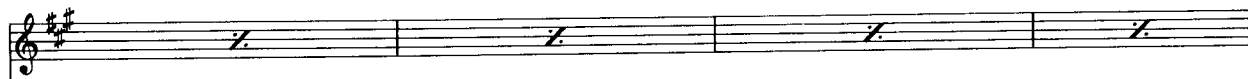
Syn.2 

Syn.3 

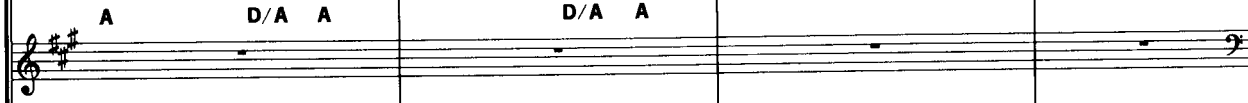
Bass. 

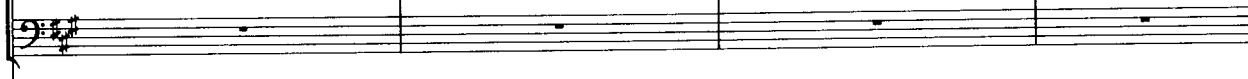
Drums. 

Perc. 

Kara. 

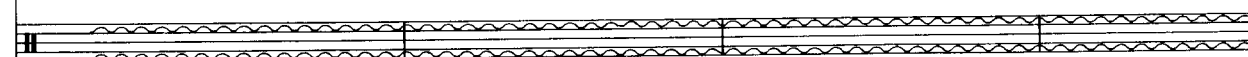
Syn.1 

Syn.2 

Syn.3 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

III

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

D.S.

♩ Coda

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

simile ad lib
simile

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

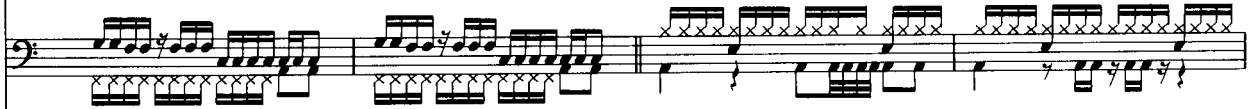
Kara. 

Syn.1 

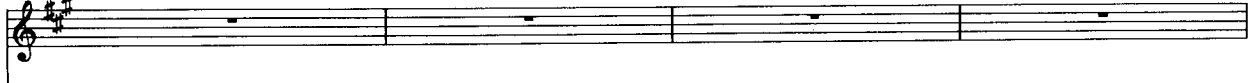
Syn.2 

Syn.3 

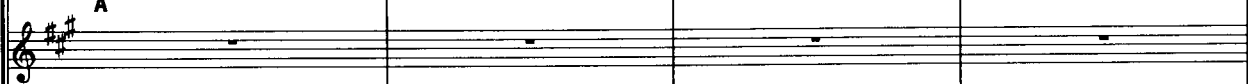
Bass. 

Drums. 

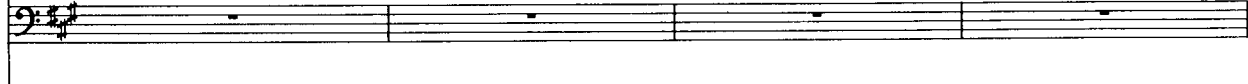
Perc. 

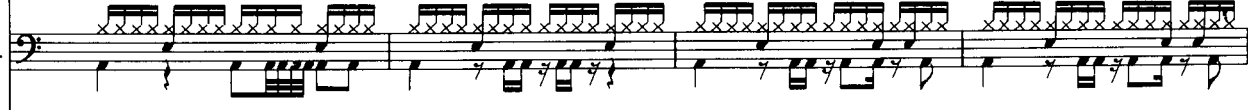
Kara. 

Syn.1 

Syn.2 

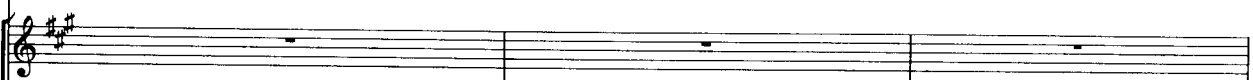
Syn.3 

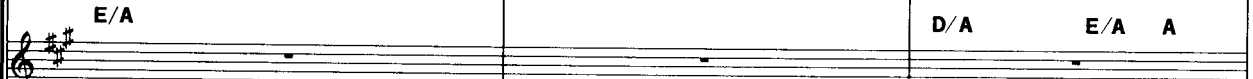
Bass. 

Drums. 

Perc. 

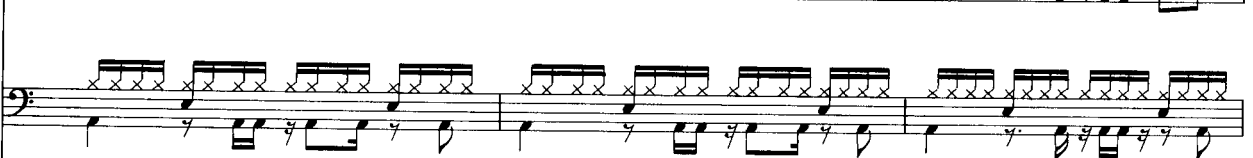
Kara. 

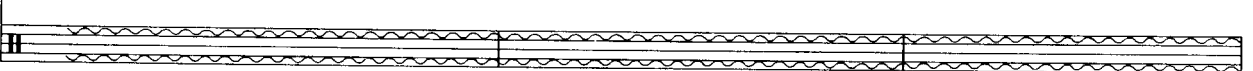
Syn.1 

Syn.2 
E/A D/A E/A A

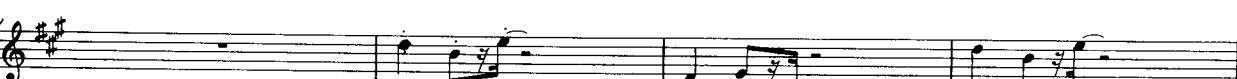
Syn.3 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

Kara. 

Syn.1 

Syn.2 
A

Syn.3 

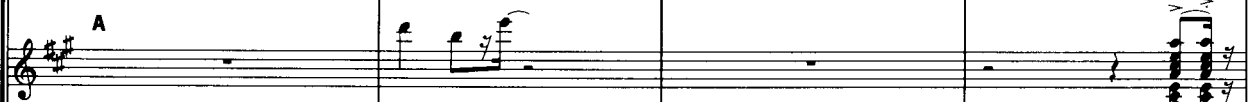
Bass. 

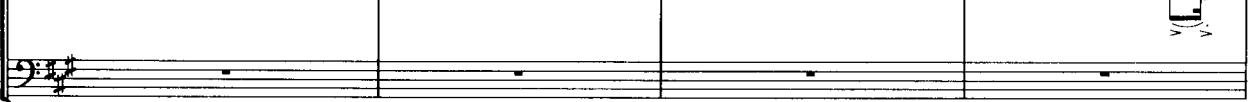
Drums. 

Perc. 

Kara. 

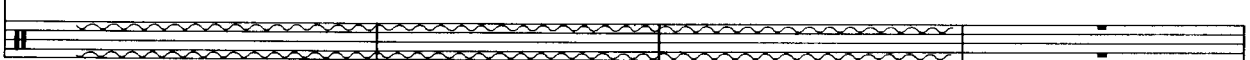
Syn.1 

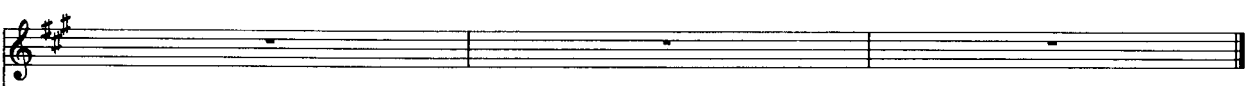
Syn.2 

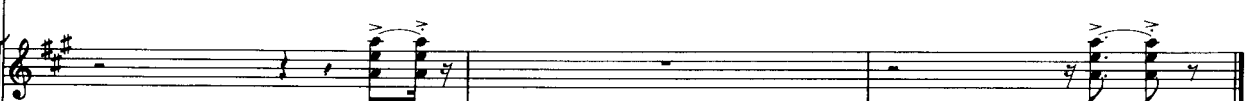
Syn.3 

Bass. 

Drums. 

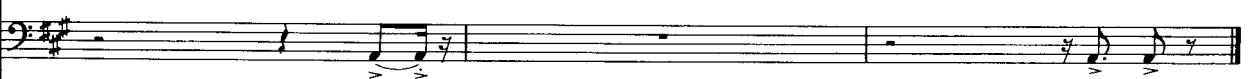
Perc. 

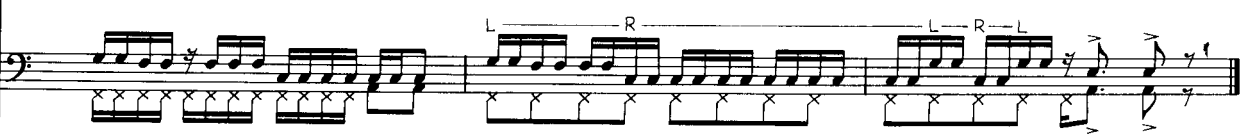
Kara. 

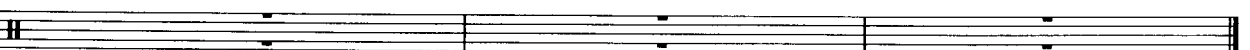
Syn.1 

Syn.2 

Syn.3 

Bass. 

Drums. 

Perc. 

EARTH BEAT

H.Hancock/B. Laswell/M.Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

$\text{♩} = 92$ *Rhythm*

Synth. (delay)
(Rhythm continues same pattern)

Synth. (Voice)
(add perc.)

simile ~

(Rhythm continues simile)

Bass.
Dr.

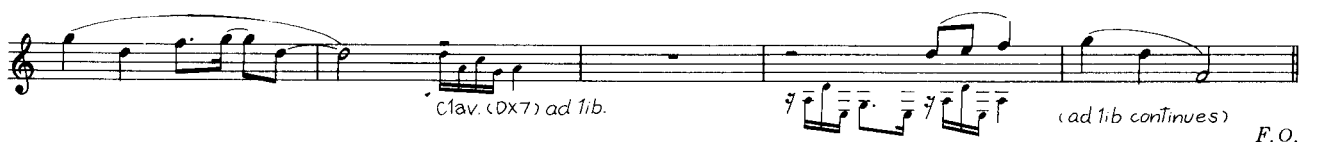
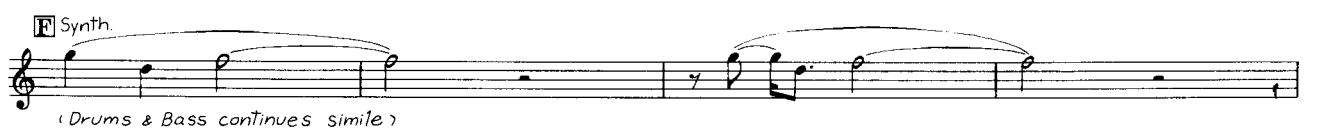
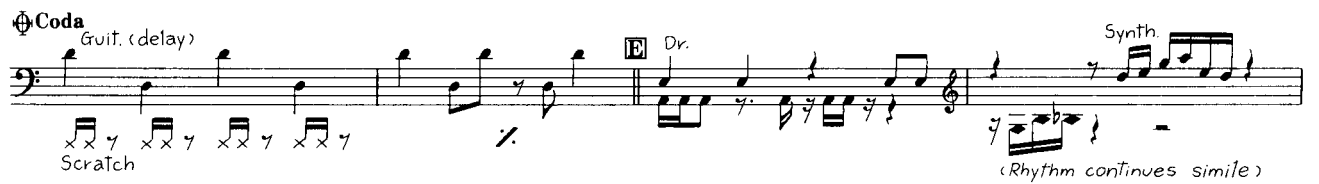
Synth.
(add tambourine)
(Rhythm continues simile)

1. Scratch & Snare
Bass
Bass Dr. 1st Time only

2.
Synth. (Voice) *Scratch*
(Rhythm stop) *Dr.* (add perc.) *Scratch*

Clav. (DX7)
(9 Times)

The musical score is written for a single melodic line, likely for a synthesizer, with a tempo of 92 beats per minute. The key signature has one sharp (F#). The score is divided into several systems, each with specific performance instructions. The first system includes a 'Rhythm' section and a 'Synth. (delay)' section. The second system features 'Synth. (Voice)' and 'simile' markings. The third system continues the 'simile' pattern and includes 'Bass.' and 'Dr.' markings. The fourth system introduces 'Synth.' and 'add tambourine'. The fifth system is marked '1. Scratch & Snare' and 'Bass', with a '1st Time only' instruction. The sixth system is marked '2.' and includes 'Synth. (Voice)', 'Scratch', and 'Dr.' markings. The seventh system features 'Clav. (DX7)' and '(9 Times)'. The eighth system continues the melodic line.



HARDROCK

H. Hancock/B. Laswell/D. Showard

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS
Sale of this edition is authorized within Japan only.

$\text{♩} = 108$
Dr.

Hi-Hat

(Synth. noise)

Scratch

Repeat 4 times

Conga

Repeat 4 times

Scratch

Repeat 4 times

A Synth.

Bass

(Rhythm)

Repeat 3 times

Scratch

B

Guit. & Bass

C

(Guitar continues same pattern)

Repeat 3 times

to C

2x.

D Scratch

Snare

(add Synth. 2nd & 3rd times)

Repeat 3 times

(Hi-Hat)

(Voice)

E Clav. (Dx 7)

Bass

Guit.

Repeat 4 times

F Scratch

G Scratch

Repeat 4 times

(add Bass Dr.) Scratch
 (Rhythm continues same pattern)
 Repeat twice
 (add Snare)
 Repeat 4 Times

Synth.

Scratch
 (add Synth.)
 D.S.to C
 (Hi-Hat)

♩ Coda
 Clav. (DX7) ad 1ib.
 (Rhythm)
 Repeat 8 times

Scratch
 Voice
 Synth.

(Hi-Hat)

Guit. Solo ad 1ib.
 (Guit.)
 Bass
 Scratch
 Repeat 6 times

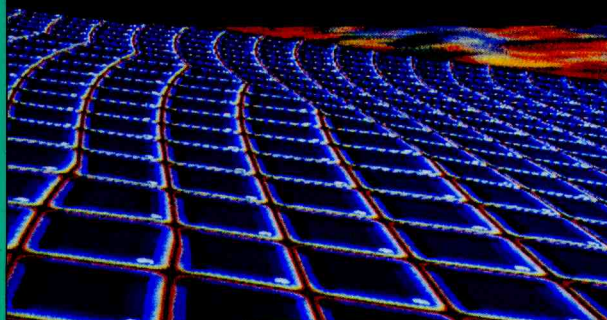
Clav. (DX7) ad 1ib.
 Repeat 3 Times

Synth.

Scratch
 Voice (2nd time only)
 (Hi-Hat)

Rockit
Earth Beat
Autodrive

HERBIE HANCOCK FUTURE SHOCK



Hardrock
Karabali
Junku

ISBN4-11-770861

C0073 ¥1800E ★